

チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 88 2012年3月24日発行
郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

チェルノブイリ 26 周年救援キャンペーン

「チェルノブイリと福島」講演会

～チェルノブイリと福島の子どもたちへ支援の手を～

2012年 4月 22日(日)

明治大学駿河台キャンパス リバティホール

スライド講演 広河隆一

ゲスト ポホモワ・ワレンチーナ、ゼレンケヴィチ・オリガ、
武藤類子、富塚悠吏、黒部信一



陥落した福島第一原発正門前の道路、
双葉郡双葉町。2011年4月15日

広河隆一 写真展 チェルノブイリと福島 4月16日(月)～4月22日(日)

9:00～21:00(最終日 19:00) 入場無料

明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン 1F 展示コーナー

講演会・写真展の詳細は p2

チェルノブイリ26周年救援イベントの賛同金を募集しています。一口1000円。
みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

チェルノブイリ 26 周年救援イベント 2012 年 4 月



チェルノブイリ 26 周年イベントに、ベラルーシからポホモワさん親子をお招きします。ポホモワさんは、自分の娘が甲状腺の手術を受けたのをきっかけに、病気の子どものための慈善団体を設立し、20 年間活動を続けています。子ども基金はこの団体を通じて、サナトリウムでの保養支援や里子支援をしています。福島からは、「9.11 さようなら原発 5 万人集会」で感動のスピーチを行った武藤類子さんと、「脱原発横浜会議」で福島から避難している子ども代表の訴えをした富塚悠史君をお招きします。

~~~~~

## 「チェルノブイリと福島」 講演会

4/22 (日) 13:30 開演

明治大学リバティホール (東京都千代田区)

最寄駅 JR・東京メトロ「お茶の水駅」

資料代 1000 円

◆スライド講演 広河隆一 (フォトジャーナリスト・DAYS JAPAN 編集長、「チェルノブイリ子ども基金」顧問、「未来の福島こども基金」世話人) ◆ポホモワ・ワレンチーナ (ベラルーシ ゴメリ市在住。チェルノブイリ事故被害児童を援助している慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」代表) ◆ゼレンケヴィチ・オリガ (ベラルーシ ゴメリ市在住。ポホモワさんの娘。事故当時 3 歳。7 歳のとき甲状腺の手術を受けた) ◆武藤類子 (福島県三春町在住。「ヒロアクション福島原発 40 年」実行委員) ◆黒部信一 (小児科医、「チェルノブイリ子ども基金」顧問、「未来の福島こども基金」代表) ◆富塚悠史 (10 歳) 郡山市から横浜市に避難している。1/14 に開催された「脱原発世界会議の開会式で、福島第一原発事故の被害を受けた子どもの代表として「原発はいらない」と訴えた。

## “広河隆一 チェルノブイリ写真展”

4/16 (月) ~ 4/22 (日) 9:00 ~ 21:00

(最終日 19:00 まで)

明治大学アカデミーコモン 1F 展示コーナー

(東京都千代田区) 最寄駅 JR・東京メトロ「お茶の水駅」 入場無料

〔主催〕チェルノブイリ子ども基金、未来の福島こども基金、現代史研究会

〔連絡先〕03-5228-2680

## 各地のイベント

＜福島県＞

アウシュヴィッツ平和博物館開館 9 周年のつどい

「チェルノブイリ被曝者を迎えて」

4/23 (月) 18:30 開演

白河市立図書館 会議室 入場無料

第 1 部 DVD「その日のあとで フクシマと

チェルノブイリの今」上映

第 2 部 ポホモワさんとオリガさんの体験を聞く

〔主催〕NPO 法人アウシュヴィッツ平和博物館

〔連絡先〕0248-28-2108

〔後援〕白河市、白河市教育委員会

〔協力〕チェルノブイリ子ども基金

＜三重県＞

「生きていたい！～チェルノブイリの子どもの  
達の叫び～」現地最新情報報告会

(チェルノブイリ子ども基金 佐々木真理)

4/26 (木) 18:30 開演

三重県教育文化会館 3 階第 5 会議室

参加費：1000 円 高校生以下無料

〔主催〕三重 426 実行委員会

〔連絡先〕090-1239-1410

＜愛知県＞

「広河隆一写真展 26 年前何が起きたのか  
何が続いているのか」

5/29-6/3 10:00-17:00

(初日 13:00 より、最終日 15:00 まで)

名古屋市市政資料館 3 階展示室 入場無料

〔主催〕チェルノブイリ 26 周年企画 in

名古屋実行委員会

〔連絡先〕080-3076-5158 (森崎)

## 医療機器支援の報告

### ウクライナ ジトミル州 オブルチ地区病院産科

みなさまからお寄せいただいた医療機器支援募金により、未熟児用の保育器を送ることができました。



小児科医 L・タイシャ「大変すばらしい医療機器をいただき、言葉にできないほど感謝しています。ジトミル州には、このような保育器は今まで 1 台しかありませんでした。それはここから遠い町の病院です。この保育器のおかげで、この産院で 500 グラムからの赤ちゃんを助けられるようになりました。保育器の中で乳児の体温調節ができ、移動させることなくレントゲン撮影もできます。今後、この保育器のおかげでより子どもを助けることができるようになります」

==\*==\*==\*==\*==\*==\*==\*==\*==\*==\*==\*==\*==\*==\*==\*==

この産院のあるオブルチ市は、移住権利のある第 3 ゾーンです（①避難ゾーン、②移住義務ゾーン、③移住権利ゾーン、④放射線管理強化ゾ

ーン）。産院から遠くない場所にある「オブルチ衛生センター」を訪れました。ここでは、住民が持ち込む食品（主に、きのこや野生動物の肉など）の測定を無料で行っています。

放射線部門長 G・アナトーリ「チェルノブイリ事故後、一番汚染されていたのは牛乳でした。今でも森のきのこやベリー、野生動物の肉は汚染が高いです。1000 ベクレルも出ることもあります。地域的には特に北部（ベラルーシの国境側）の汚染が高いです。86～87 年は、全ての食品を調べていました。しかしこの器械で測れるのはセシウムだけで、ストロンチウムを測ることはできません。以前は放牧が行われていました。牛は森に入って行き草を食べていましたので、牛乳の汚染はひどかったです。今は放牧をやめたため、値は下がりました。しかし今も牛乳で 500 ベクレル出ることがあります。現在、ここに測りに来る村人は少なくなっています。放射能値が少し下がっていることと、村人が慣れてしまったからではないかと思います。持ち込まれたものが高値だったら、食べないように助言します」訪問時、ちょうど持ち込まれていた乾燥キノコを測っていました。許容レベル（セシウム137）が 2500 ベクレル/kg であるのに対し、目の前で測ったものは 9500 ベクレル/kg でした。

この地区の住民は年に 1 度、病院で体内放射能値を測定することになっています。高い値が出たら、上記の衛生センターと相談し、住んでいる場所、食べているものに原因がないかどうか調べるそうです。体内放射能検査部の医師は「高い値が出るのは、森で採れたものを食べることが原因だと思われる」と話しました。

（報告：佐々木真理）



## 2012年2月 家族訪問・ウクライナ（その1）

報告 佐々木真理

訪問した2月初め、ちょうど寒波の時期で、学校も幼稚園もお休みになっていました。キエフの慈善団体「チェルノブイリ子どもたちの生存」（以降、「生存」）のスタッフと共に里子の家を訪問しました。ナロジチ市訪問のときには気温マイナス33度でした。同市は、放射線汚染第2ゾーン（移住義務ゾーン）です。ナロジチの家族訪問には、同市の病院の小児科医 M・エレーナが同行しました。

\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*

### B・パーシャ

#### 2001年生まれ

ジトミル州ナロジチ市

先天性大腸発達障害。腎臓発達障害。2010年に大腸の手術を受けた。

母親ワレンチーナ（33歳）「パーシャは生まれてすぐ大腸に異常があることがわかりました。数年前からは腎臓の調子も悪くなりました。時期ははっきり決まっていますが、腎臓の手術もしなければなりません。定期検査に通い、薬を飲んでいます。今はこんなに寒いですから、風邪などひいたら大変です。体がとても弱いのです」パーシャは自転車に乗ったり、テレビのアニメを見たりするのが好き。「勉強があまり好きではないのは、もしかしたら、しょっちゅう学校を休まなければならないせいかもしれませんね」と母親。父親セルゲイ（38歳）「うちには畑があり家畜も飼っています。最近は放射能測定所に作物をもっていき



ません。今は放射能が大体許容濃度以下になっているし、同じ畑でとれたものは一度測れば、あとは同じだと思うからです」

ナロジチ市は、移住が必要な放射能レベルだが、政府の財政上の問題で移住が行われなかった。自ら移住した住民が残っていた空き家が町のあちこちで見られた。（写真下：人が住んでいない家）そのような家を国が買い上げ、別の住民が住んでいる。パーシャの家族が住んでいるのもそのひとつだ。

### T・ウラディ斯拉フ

#### 2004年生まれ ナロジチ市

先天性心疾患。肺動脈弁狭窄症。脳水腫。他に複数の障害あり。母親ガリーナ（44歳）「息子はこれまでに5回手術を受けました。生後5か月、10か月、半年、2歳半と去年。最初が心臓の手術でした。これが一番重大な問題でしたから。次に目の手術、唇、上顎の手術を受けました。生まれた時、口は形成されていませんでした（口唇

口蓋裂)。手術はすべてキエフの病院でした。費用の援助などはありませんでした。舌の手術も予定されています。最近やっと少し話せるようになってきました(発音は明瞭でないが聞きとることはできる)。学校の先生に家にきてもらい勉強をしています。息子は勉強が大好きです。もし学校に通っていたら、多分クラスで一番くらいではないかしら」最後のところを、母親はととてもうれしそうに話した。家族は畑で自分たちの食べる野菜を作っている。以前は家畜も飼っていたが、手術費用のために売った。部屋の中では猫とハムスターが飼われていて、ウラディスラフが可愛がっていた。同席した町の医師エレナは、「この子を援助してくれる方を探してくれて、本当にありがとうございます。私もとてもうれしいです。この子は大変な思いをたくさんしています。賢くてとてもいい子なんです」と話した。

チェルノブイリ事故当時、母親が妊娠中だった子どもは、先天性心臓疾患で生まれ、87年に死亡。23歳の長女と大学生の次女には健康上の大きな問題はない。母親は、甲状腺、心臓、腎臓に問題がある。両親ともナロジチ地区の村の出身。この家族が住んでいるのも、移住した住民が残っていた家だ。

## **M・ボグダナ 2002年生まれ ナロジチ市**

先天性大脳発達障害。母親ガリーナ(43歳)



「娘は自分で起き上がることも座ることもできず、寝たきりの状態です。体の痙攣がたびたび起こります。小さい頃は私が抱きかかえたり背負ったりすることができましたが、今はもうできません。必要があれば私が抱き起こすしかありません。病院に連れて行くこともできませんので、医師に家まで来てもらうしかありません。こういう子を受け入れてくれるサナトリウムもありませんし、町にリハビリ施設もなく、家で始終付き添っていないければなりません。ですから私は働きにでることもできません」

母親はモリダビヤ出身、父親は地元ナロジチの出身。ボグダナが生まれてから離婚、母親が一人で三人の子どもたちを育てている。18歳の兄と16歳の姉には健康上の大きな問題は起きてない。父親や父方の祖母からの援助は何もない。医師エレナは、「病気の子どもを抱え、仕事をすることもできず、少ない年金だけで暮らしている家族は他にも多くいます」と話した。始終沈みがちだった母親の顔が、里親の話になるとぱっと明るくなった。もうすぐ里親の誕生日だからお祝いのカードを書いたという。

## Y・ヴィクトル

1995 年生まれ

### ナロジチ地区ヤジデレニ村

先天性大脳発達障害。母親によると「本を読んで聞かせると喜ぶが、理解しているのかどうかはわからない。数を数えたりすることはできる」以前は薬を飲んでいましたが今はときどきビタミン剤を飲むだけ。背が高く、痩せている。脊椎側湾症もある。姉アリーナ 19 歳。生まれたとき息をしていなかった。脳性麻痺。知的障害がある。手足にねじれがあり歩行が困難。車椅子を 3 年間待っているが、まだもらえないという。住んでいる村は、チェルノブイリ第 3 ゾーン（放射線管理区域）。姉弟は 2 人とも学校に通っておらず、母が家で面倒をみている。家には寝たきりの祖父もいる。父（41 歳）はボイラー技師。母親（43 歳）は 2007 年に婦人科の癌の手術、2008 年には腎臓の手術を受けた。体調はよくない。障害者年金を受けている。「子どもたちの冬用の服も靴もないため、この寒さでは外に出ることもできない」と話した。（「生存」は姉の車椅子と、姉弟の冬服・靴を送ることに決めた。）「生存」のスタッフが、母親の身なりの整っていることを褒めると、「あなたたちが来るから今日はまともに見えるようにしていますが、いつもの私は野良犬みたいなものですよ」と諦めたような笑顔で答えた。

～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～

2/1、キエフ市内の「生存」事務所に、支援金を受け取るために家族が来ていました。いつもなら子ども連れで来る人も多いそうですが、



あまりの寒さのため、親たちだけが来ていました。家族たちは近況を報告しあったり、悩みを打ち明けたりしていました。そのうちの一つの家族を紹介します。

## K・フレーリヤ 2006 年生まれ キエフ州ズグロフカ村

左腎芽細胞腫。2010 年に手術、左腎臓を切除。手術費用は無料だが、薬代と献血費用は自己負担だった。半年間入院。化学療法（1 年間に 24 回）を受けた。筋肉が落ちないようにマッサージも受けた。化学療法の副作用が心臓にも現れた。今も 3 か月に 1 度、キエフに検査に通っている。母親オクサーナ（25 歳）「娘の健康を考えて、なるべく手作りのものを食べさせています。退院後、娘と二人でサナトリウムに行きました。1 回の保養は障害児特典の保養券で行き、2 回目は里親からの支援金のおかげで保養券を買い、行くことができました。最近、検査の結果がよくなり、幼稚園に通えるようになりました。私も娘もとても喜んでいます。娘は幼稚園が大好きです。字を書いたり数を数えたりしていて、早く学校に行きたいと言っています」フレーリヤの両親は、汚染地域（キエフ州ポレスコエ）からの避難民。母親オクサーナは、91 年までそこに住んでいた。その後、避難民用住宅に家族で引っ越した。夫も同じ村からの避難民。

娘が病気になってから、夫の無関心な態度に失望して離婚。夫からもその両親からも援助はないという。





## 里親のページ

### 里子からの手紙

◆絵葉書と支援金を、本当にありがとうございます。私は大学に入学しました。専攻は簿記、銀行の会計分析と検査です。もう初めての試験期をパスしました。なかなかの成績でした。面接テストが 5 科目、筆記テストが 5 科目ありました。2 月 9 日まで冬休みです。先日、健康に関する委員会があり、婦人科と内分科の検査を受ける必要があると言われました。成長ホルモン剤と女性ホルモン剤の処方を受けました。薬を 1 年間飲み、また検査を受けます。私はもう 18 歳なので、薬代を自分で支払わなければなりません。でも、あなたから援助をいただいているので、お金の問題にはとても助かっています。弟と一緒にサーカスに行った時の写真を送ります。あなたとあなたのご家族がお元気であることを願っています。どうぞご健康で！もう一度お礼を言います。何もかも、本当にどうもありがとうございます！追伸：私たちの街の冬はとても美しいです。街の中央公園にあるパステヴィチ宮殿の冬景色の絵葉書を送ります。

(ベラルーシ ゴメリ市 K・ユーリヤ)

◆娘の病気回復のためにご支援いただき、心より感謝いたします。おかげで娘は高額な治療コース、手術、化学療法を受けることができました。3 か月ごとに検査を受け、半年毎に療法を受けています。娘は、あなたの援助を得てこの恐ろしい病気を克服しています。私たちを悲しみから救い出してくださったことに感謝しています。神様があなたに健康をおくり、親切を祝福してくださることを祈っ

ています。私たち家族全員、あなたの幸運を願っています！！(ウクライナ キエフ州 ズグロフカ村 ワレリヤの母より)

◆息子の誕生日にプレゼントをどうもありがとうございました。息子はすっかり気に入って大喜びです。ヴラッドも私たち両親もとても感謝しています。お氣にかけてくださっていること、助けてくださっていること、本当にありがとうございます。私たちはあなたと文通を続けていきたいと思っています。(ベラルーシ テレシ村 バビニチ家一同より)

### 里親の声

◆私の助けなど微々たるものですが、母親の真の感謝の気持ちが伝わってきて、とても感動しました。私自身も彼らを助けることで、自分も助けてもらっています。ご家族が少しでも元気に暮らせるよう祈るばかりです。(岐阜県 S さん)

◆私は 4 人の子どもの母親です。私たちの家は福島原発から 170 キロのところにあります。事故はまだ収束していないので、母子で私の生まれ育った街に避難しています。私たちは、チェルノブイリの皆さんの話を聞いていたので、避難することができました。心から感謝しています。その恩返しに里親になろうと決めました。(愛知県 N さん)

◆里子の近況を知り、彼女のがんばりを私も見習いたいと思いました。(埼玉県 S さん)

※里親制度について詳しくお知りになりたい方は、事務局へお問い合わせください。資料をお送りします。





1年前のあの3月11日、すべてが一変しました。冒頭から私事ですが、あの日以来、山形県との県境・飯豊山麓に住む娘と孫たちをわが家に招くのはご法度になってしまいました。郊外の登山やハイキング、公園の散策や地元産食品の買い物…自然豊かな都市の楽しみの多くが無に帰してしまいました。3月3日付け毎日新聞は、政府が川内村の警戒区域を「年間の被曝量が20ミリシーベルト以下であることを踏まえ」解除する方針と伝えました。昨年4月、文部科学省が学校施設利用の判断のための暫定基準値20ミリシーベルトを福島県教育委員会に通知し、その後、県民の激しい抗議を受けて、当時の高木文科相が「1ミリシーベルトを目指す」と公言しましたが、このニュースは、法令で定める一般人の年間被曝許容基準1ミリシーベルトの20倍という途方もない暫定基準にいまだに政府が固執していることを示しています。

私の居住する公営住宅自治会が作成した小学校通学路放射線モニタリング・マップ（12月28日計測）によれば、集団登校の集合場所をはじめ多くの地点で毎時1マイクロシーベルトを超えています。放射線管理区域基準の時間あたり換算値0.6マイクロシーベルトを優に超える場所で、子どもたちはマスクすらも着用せずに通学し、遊んでいるのです。

原発災害が福島県の広大な地域にもたらしたものは、目に見えない放射能による汚染だけではありません。佐藤雄平県知事による「風評被害」撲滅・地産地消奨励・人口流出抑制政策、山下俊一県放射線健康リスク管理アドバイザーらによる安全・安心キャンペーン、郡山市の法曹界・医療団体・商工会が一丸となった200万人署名運動などによって、県民の多くは「見ザル、聞かザル、言わザル」の三猿状態に押し込められ、あたかも目に見えない戒厳令体制が県土をおおってしまったかのようです。

昨年6月、おおっぱらにももの言えないような重苦しい社会的雰囲気の中、郡山市内の小中学生たち14人が「年間1ミリシーベルト以下の安全な場

所での教育の実施」を求める仮処分を福島地裁郡山支部に申し立てました。

債権者（原告）側は、子どもたちの通うすべての小中学校の放射線値がチェルノブイリ事故の「強制避難」基準（年間5ミリシーベルト）を超えると立証する矢ヶ崎克馬・琉球大学名誉教授の意見書など、外部被曝と内部被曝の両面の見地から健康被害の恐れを示す数々の証拠を提出しましたが、それに対して、債務者（被告＝郡山市）側はなんら具体的に反証しないまま、現在の放射線値は落ち着いている、郡山市による除染努力によって放射線値の低減が見込まれる、原発事故の責任は郡山市にはない、債権者らには転校の自由があるなどと主張するのみで、申し立て棄却を求めました。

裁判が異例に長引いたことから、当初、慎重に検討しているのではと期待されていましたが、12月になって出された判断は「申し立て棄却」でした。

「100ミリシーベルト未満の低線量被曝の晩発性障害の発生確率について実証的な裏付けがない、文科省通知では年間20ミリシーベルトが暫定的な目安とされた」などと、裁判所みずからが御用学者たちの言い草を丸呑みし、行政府の方針を追認するのです。

裁判所は、三権分立制度に占める法の番人たる立場を放棄して、原発ムラの番犬に成り下がりました。県内メディアが裁判の意味をまったく伝えないことも合わせて、被曝地をおおう暗闇はますます深くなりました。

だが、暗闇のなかにこそ希望の光を高く掲げなくてはなりません。棄却を不服とする子どもたちが仙台高等裁判所に即時抗告する一方、ふくしま集団疎開裁判の会は、この裁判そのものを市民の見識で裁く「世界市民法廷」を東京と郡山で開廷するなど、福島の子もたちが置かれた状況についての情報を国の内外に広く発信し、「子どもたちの命と健康、そして未来を守れ！」と訴えつづけてゆくでしょう。ふくしま集団疎開裁判の会 井上利男（福島県郡山市）



# 黒部ドクターのお話



## ◇第6回子どもの健康相談会 報告◇

1月8日福島市で開かれた「第6回子どもの健康相談会」に行ってきた。医師10名と臨床心理士、栄養士、などの方が集まり、相談を受けました。40家族が相談に来られましたが、今の段階では避難できる人が少なく、線量が高いのにどう対処したらよいかとの相談が多く、内部被曝を減らすことと、年に何日かは非汚染地へ行くことを勧めるしかありませんでした。

まとめの段階で、避難や疎開という言葉ではなく、チェルノブイリで使っている「保養」という言葉で年1か月以上汚染地を離れることを勧めることになりました。しかし、行政が対応してくれないなら、家族のグループで1軒屋を借りて3家族くらいで行くとか、いろいろな話が出ましたが、学校に行っている子ども、特に中高生のいる家族の保養が問題になりました。北海道から沖縄の石垣島まで、受け入れを表明してくれていますが、学校もしくはクラス単位で保養に出るのと違い、転校とか仲間から離れたとか問題が残るため、実際にどうするかは難しい所です。ベラルーシでは国が援助して学校サナトリウムを作りました（先駆けは私たちのチェルノブイリ子ども基金とドイツのNGOとベラルーシ政府で作った「希望21」ですが、今は9か所あります）。

とにかく今は、避難から保養に代わりつつあります。避難がベストですが、できない社会経済的事情があり、岩手や宮城で家がなくなってしまった被災者と比べて、家が残っているために踏ん切りがつかない家族も多いようです。福島市内には、チェルノブイリの強制避難地区に該当する汚染地域がありますが、政府や県、市は動きません。

相談を受ける私たちも、そんな現状に困惑してしまいます。せめて学校サナトリウムが作れるとよいのですが。測定所と違い大変なお金がかかり、しかも教育をすれば、自治体の教育委員会の協力も必要です。目標はできましたが、実現は難しく、当面は小学校低学年以下の子どもの保養を考えることになるかもしれません。

保養、避難についての詳しい情報は福島を中心に活動している「子どもを放射能から守る全国ネットワーク」にご相談ください。

〔編集部注〕黒部ドクターは3月1日から、西武線練馬駅前西口の「すずしろ診療所」へ移り、所長に就任されました。

黒部信一：すずしろ診療所所長 小児科医師

黒部信一のブログ <http://kurobe-shin.no-blog.jp/>

## 新刊本の紹介(その1)

放射能対策ハンドブック

『原発事故と子どもたち』

☆未来の福島子ども基金代表 黒部信一 著

※三一書房刊 定価1,365円 事務局でも取扱い中

広河隆一 推薦(デイズジャパン編集長)

「私たち大人には、子どもの命と健康を守る義務がある。この本には、子どもを守るための知恵がいっぱいつまっている―」

### 放射線から子どもたちを守るために

家庭で、地域で、親は何をなすべきか？

政府や行政に何を求めたらよいのか？

福島現地で健康相談に取組んできた黒部ドクターがわかりやすく解説。

第1章 放射能と向き合う親たち

～子ども健康相談の現場から

第2章 放射性物質の恐ろしさ

～親たちが知っておくべき基礎知識

第3章 できることは何でしょう

～親たちの日常的な自衛策

第4章 もう原発には頼らない

～子どもたちの未来のために

☆未来の福島子ども基金と DAYS 放射能測定器支援募金と共に、全国のみなさまのご支援のおかげで、何カ所もの被災地に食品の放射能測定器を贈ることができました。詳細は今号に同封したチラシをご覧ください。次のステップとして、被災児童の保養に取り組みます。どうぞこれからも応援をよろしくお願いします。



【2011年1月1日～12月31日】

| 収 入             |             | 支 出             |            |
|-----------------|-------------|-----------------|------------|
| 項 目             | 金 額         | 項 目             | 金 額        |
| 前期繰越<br>募金      | 22,055,996  | 救援              |            |
| 救援一般            | 12,419,989  | 医薬品・物品          | 890,594    |
| 保養費             | 899,082     | 保養費*2           | 1,788,236  |
| 特別保養費           | 2,402,401   | 特別保養            | 2,491,546  |
|                 |             | 団体運営費*3         | 1,384,069  |
| 里子支援            | 5,038,030   | 里子支援*4          | 5,616,546  |
|                 |             | 緊急支援            | 595,505    |
|                 |             | 奨学生支援*5         | 124,035    |
|                 |             | 通訳・派遣           | 391,152    |
|                 |             | 送金・為替手数料        | 153,000    |
| 救援キャンペーン        |             | 救援キャンペーン        |            |
| 25周年4月イベント      | 2,037,974   | 25周年4月イベント      | 654,600    |
|                 |             | 26周年4月イベント      | 97,800     |
| 震災支援            | 618,800     | 震災支援            | 1,259,542  |
| 医療機器支援          | 806,000     | 医療機器支援          | 6,173,920  |
| 11月講演会          | 98,200      | 11月講演会          | 24,188     |
| 購読料・運営費*1       | 2,222,715   | 事務運営費           |            |
| 預貯金利息           | 3,368       | 国際 Tel・Fax      | 720        |
|                 |             | 国内 Tel・Fax      | 86,837     |
|                 |             | 印刷・コピー費         | 178,082    |
|                 |             | ニュースほか発送費       | 719,755    |
|                 |             | 人件費             | 3,794,430  |
|                 |             | 交通費             | 457,700    |
|                 |             | 事務消耗品費          | 254,289    |
|                 |             | 事務所費            | 1,248,051  |
|                 |             | 広告・宣伝費          | 135,750    |
|                 |             | 資料・会議費          | 8,700      |
|                 |             | 国内振込手数料         | 4,927      |
| 物販売上            |             | 物販仕入            |            |
| 本・ポストカード・CD・民芸品 | 775,924     | 本・ポストカード・CD・民芸品 | 347,904    |
| カレンダー2011       | 358,980     | カレンダー2011       | 260        |
| カレンダー2012       | 2,655,885   | カレンダー2012       | 1,087,818  |
| カレンダーバックナンバー    | 6,000       |                 |            |
| 預り金             | 34,130      |                 |            |
| 小 計             | 52,433,474  | 小 計             | 29,969,956 |
|                 |             | 次期繰越金           | 22,463,518 |
| 合 計             | ¥52,433,474 | 合 計             | 52,433,474 |

- \*1 (株)カタログハウスからの運営費150万円含みます。
- \*2 2010年に前期分を送金しました。
- \*3 現地のスタッフ給与、事務所費など。
- \*4 里子支援 99人分(経費1割、2012年1～6月支援分も含みます)
- \*5 奨学生支援 8人(年度途中の人数も含みます)
- \* 切手11,060円、図書カード5,000円分も寄贈されています。
- \* カレンダーの収入・支出とも次年度にまたがります。2011年度のカレンダー収益は1,905,771円でした。

2011年度の会計監査の結果、適正であることを認めます。

2012年2月25日

會計監査

監事 鈴木 由利子

監事 清水 玲子



## 募金・救援状況



### ●募金状況 2011年12月～2012年2月 (単位:円)

|         | 12月       | 1月        | 2月      |
|---------|-----------|-----------|---------|
| 募金件数    | 448件      | 181件      | 66件     |
| 救援寄付金   | 2,341,547 | 1,342,340 | 359,330 |
| 保養費     | 202,811   | 16,950    | 16,000  |
| 特別保養費   | 243,000   | -         | 35,000  |
| 里子支援    | 606,100   | 1,247,980 | 73,780  |
| 医療機器支援  | 55,000    | 1,000     | -       |
| ニュース購読費 | 132,500   | 36,000    | 16,000  |
| 4月賛同金   | 5,000     | -         | 10,000  |
| 合計      | 3,585,958 | 2,644,270 | 510,110 |

☆ほかに現物寄付として切手 400 円分

### ●救援状況 2011年12月～2012年2月 (単位:円)

#### <ウクライナ>

#### ◎子どもたちの生存

里子支援 11 人('12.1～6 月分) 260,469

緊急支援 4 人('12.1～6 月分) 94,591

◎シテファルク・ミーシャ支援(検査代・渡航費) 157,340

◎シオネカヤ・インナ支援 47,719

#### <ベラルーシ>

#### ◎希望 21

保養費(2012 年前期分) 1,953,500

#### ◎困難の中の子どもたちへ希望を

医薬品支援('12.1～12 月分) 793,458

里子支援 60 人('12.1～6 月分) 1,413,918

緊急支援 9 人 210,087

奨学生支援 1 人 23,337

新年・クリスマス会支援 78,880

運営費(オフィス備品) 11,668

#### ◎チェルノブイリのサイン

里子支援 9 人('11.10～'12.3 月、'12.1～6 月分) 213,651

~~~~~

チェルノブイリの歌声 ～みなさまからのメッセージ～

◆「生きていたい」(書籍)を、改めて島の子どもたちに読ませています。他人ごとではなくなった今だからこそ読み返し、二度と忘れないように心に留めておきたい作品です。(沖縄県 Iさん)

◆いつも基金ニュースをお送り下さりありがとうございます。チェルノブイリの子どもたちに、そして日本の東北・福島他の子どもたちに謝りたい気持ちでいっぱい。大切な皆様のご活躍の発展をお祈りいたします。(兵庫県 Nさん)

◆昨年は名古屋でも広河さんの講演があり、放射能について安全安心をいうひとびとに対して、心から怒っておられました。当日は、会場いっぱいの聴講とな

♥ 募金団体名一覧 ♥

紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。ご寄付をいただいたみなさまに心より感謝申し上げます。(順不同・敬称略)

【12 月】照恩寺／(株)鹿王企画／ストップルトニウム神奈川連絡会／日本キリスト教団広島船越教会／大阪北教会婦人会／T・M ヨオガ楽園／大阪友の会／広島女学院中学高等学校／川西友の会／すずめの木 相談室／日本キリスト教会浦和教会 日曜学校／(福)共に生きる会 川和保育園／(株)ジョイメイト／東用堂治療院／千葉友の会／恵泉女学園中学・高等学校 信和会宗教部／かしのき保育園／ケイ歯科クリニック／ぐりんぴーす／(医)創生会真岡西部クリニック／日本山 妙法寺／トランスフェリックマネジメント／キリスト教事業所連合同労組／(特活)広河隆一非核・平和写真展開催を支援する会

【1 月】友愛富士見町保育園／自治労日野市職員組合／自治労横浜総務支部／日本基督教団代々木上原教会／松山古町教会 C.S／トランスフェリックマネジメント／(株)ジョイメイト／中振キリストの教会／木村眼科クリニック／One Voice AIZU 実行委員会／川和保育園 父母の会／チェルノブイリ子ども基金奥羽／三重・チェルノブイリ被曝自動救援募金／イエス・キリスト教会 祈りの家／

【2 月】千葉友の会／東京平和運動センター／PHILIA project／実教出版 放射能倶楽部／(株)音楽センター／日野市保育問題協議会／(株)ジョイメイト／TM ヨオガ楽園／トランスフェリックマネジメント

~~~~~

#### 2012 年版救援カレンダー収益

収益(募金額) 2,186,542 円 (3/13 現在)

多くのみなさまにご協力いただきお礼申し上げます。

#### 2011 年 11 月講演会「チェルノブイリと福島」募金報告

募金額 74,012 円

福島への支援として、「未来の福島こども基金」\*に半額分 37,006 円を寄付いたしました。ご来場、ご支援をいただきまことにありがとうございました。

\*《未来の福島こども基金》

<http://fukushimachildrensfund.org/>

~~~~~

り、若い人が多かったのが良かったと思いました。(愛知県 Sさん)

◆子ども達が少しずつでも癒されて、希望が与えられますよう切に願っております。(北海道 Sさん)

事務局から

■ボランティア募集

◎事務局では、毎月第1・3土曜日の午後1時半～5時、ボランティアの方に事務作業などを手伝っていただいています。

◎ニュース発送作業(年4回:3・6・9・12月)

次回 日時:6/23(土)午後1時～4時頃まで

場所:東京ボランティア市民活動センター 会議室B

(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10階)

少しの時間でも歓迎です。

◎日程が変更になる場合もありますので、ボランティア参加希望の方は、前日までにご連絡ください。

【問い】平日午前10時～午後5時半 留守の場合は伝言をお願いします。T&F 03-5228-2680

■「基金ニュース」について

募金をくださった方には、使途の報告としてニュースレターをお送りしています。また、ニュースレター購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。

■振込用紙と領収証について

すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

払込取扱票のお名前・ご住所は

楷書でわかりやすくご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

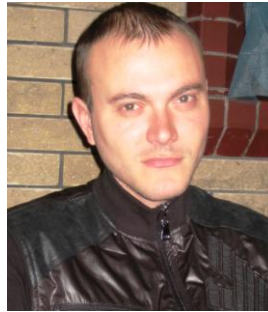
「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収書が入り用の際は申し出ください。

※ご不明な点がございましたら問い合わせください。

◆4月の救援イベント:チラシ配布、ポスター掲示にご協力いただける方は事務局までお知らせください。

【緊急支援の続報】



前号のニュースでお知らせした、ミーシャ(シテフォルク・ミハイル、30歳)についての続報です。子どもの頃甲状腺がんの手術を3回受け、子ども基金が招待した保養に参加したミーシャは、その後転移がみつかり、フランスで緊急手術を受けました。97年、子ども基金は彼を救うため手術のための入院費・渡航費を支援しました。それから14

年後の昨年、また転移が起きたのです。そのため、検査費用・渡航費用を支援しました。「ご支援をありがとうございます。ビザ取得の難しさから、検査はチェコではなくトルコで行いました。心身共に大変疲れ、ずいぶん痩せました。検査の結果、肺のほか、さまざまな臓器への転移があることがわかり、手術するには手遅れでした。最後のチャンスは医師が処方した薬(抗がん剤)です。この療法を終了後、再びトルコに行く必要があります。しかし薬があまりの高額のため、もうどうすることもできません」なんとかこの青年に生き延びてほしい、その思いから、医薬品の費用8350ドルの支援を決めました。

新刊本の紹介(その2)

『検証 原発事故報道～あの時 伝えられたこと』

DAYS JAPAN 増刊号

運命の一週間(2011年3月11日～17日)

監修/広河隆一 TV・新聞・ツイッター そして検証報告発売後すぐに売り切れとなり、現在増刷を検討中。ご希望の方は、下記サイトからご予約をお願いします。

<http://goo.gl/qCaQ5>

広河隆一写真集『新・人間の戦場』

フォトジャーナリストとして、緊迫した現場を取り続けてきた仕事の集大成。世界の真実が伝わる貴重な一冊です。ご注文はDAYS JAPANのサイトからまたはAmazonで。

<http://goo.gl/IRVXg>

<http://goo.gl/Hc3aU>

一般の書店では手に入りません。

※問合せ DAYS JAPAN 電話 03-3322-0233

Fax 03-3322-0353

●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年4回発行●

〒162-0816 東京都新宿区白銀町25 メゾンド原 207号室 Tel/Fax 03-5228-2680

ウェブサイト=<http://www.smn.co.jp/chno/index.html> e-mail: chno1986@tokyo.email.ne.jp

事務局ブログ ◇神楽坂事務局だより <http://blog.goo.ne.jp/chno1986jimukyoku/>

※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。